

京都嵯峨芸術大学 広報

平成22年度 生涯学習講座受講生募集中!

今年で8年目を迎える「生涯学習講座」は、日本画や洋画等のものづくり講座を中心に、各種文化講座、そしてこども講座まで幅広い内容で全61講座をご用意しています。今年度の新講座として、初めての方を対象とした日本画の「模写基礎演習講座」や京都一周トレイルを辿りながら出会った風景や草花を写生する「歩いて描く京都の自然」講座等を開講致します。講座の詳細は本学HP(下記参照)をご覧ください。ご希望の方には、パンフレットを無料でお送り致します。(文化事業部)

※お申込み受付中です。受付は先着順で、定員になり次第締切らせていただきますのでご了承ください。

【講座詳細】
<http://www.kyoto-saga.ac.jp>をご覧ください。
 HPからもお申込みいただけます。

【パンフレット請求・お問合せ先】
 〒616-8362 京都市右京区嵯峨五島町1番地
 京都嵯峨芸術大学 文化事業部内「生涯学習講座係」まで
 TEL:075-864-7898 FAX:075-882-7770
 E-mail:bunka@kyoto-saga.ac.jp

本学関係者による展覧会情報

■吉水絹代／染織
 『13th International Triennial of Tapestry』
 日時:5月10日(月)～10月31日(日)
 会場:Central Museum of Textiles(ポーランド)

『第32回日本新工芸展』 日時:5月12日(水)～23日(日)
 会場:国立新美術館(東京)

■兼先恵子／染織
 『第32回日本新工芸展』 日時:5月12日(水)～23日(日)
 会場:国立新美術館(東京)

■日野田崇／陶芸
 『アートフェア東京』 日時:4月2日(金)～4日(日)
 会場:東京国際フォーラム 展示ホール&ロビーギャラリー(東京)

■瀧澤賢福／洋画・ミクストメディア
 『関西二科展』 日時:4月20日(火)～5月2日(日)
 会場:京都市美術館(京都)

附属博物館／附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」／連続公開講座「京の美意識」スケジュール／あらし山びこスケジュール

附属博物館

- 『京都嵯峨芸術大学の先人達 第3回 川端彌之助展 ～京都嵯峨芸術大学所蔵品より～』
 日時:4月2日(金)～5月8日(土) 10時～17時 日曜休館
 主催:京都嵯峨芸術大学
- 『重要無形民俗文化財 嵯峨大念仏狂言展 一装束と道具を中心に』
 日時:6月1日(火)～6月20日(日) 10時～17時 月曜休館
 主催:京都嵯峨芸術大学

附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」

- 『ANIMATION OB/OG FRONT』
 日時:5月25日(火)～6月13日(日) 10時～18時
 ※最終日は17時まで 月曜休館
 主催:京都嵯峨芸術大学／短期大学部
 デザイン研究室 イラストレーション・アニメーション
- 『CIRCULATION2』 ※博物館、ギャラリーの2会場にて開催
 日時:6月22日(火)～27日(日) 13時～18時
 ※最終日は16時まで 無休
 但し、博物館は6月23日(水)からの開催になります。
 主催:芸術学部 メディアデザイン学科 メディアデザイン研究室／短期大学部 美術学科ミクストメディア研究室(共催)
- 『油画3・4回生作品展』
 日時:7月7日(水)～12日(月) 10時～17時
 ※最終日は16時まで 無休
 主催:芸術学部 造形学科 油画研究室
 ※展覧会スケジュールは変更になる場合があります。ご了承ください。

2010年度 連続公開講座「京の美意識」スケジュール

四季をおりなす美しい景観に恵まれ、都として約1200年にわたる歴史の時を刻んできた京都の独特の知恵や美意識について、毎回、各分野の第一線で活躍されている講師をお招きして、ご講演いただいています(参加無料)。また、ご希望の方には過去の講演録を販売しています(一冊千円)。

- 第51回4月17日(土)
 「古代と現代を結ぶ自然系文化遺産 大覚寺大沢池の保全と継承の物語」
 真板昭夫<本学教授>
- 第52回5月8日(土)「美しいものがすぐそこに」真箏<芸妓>
- 第53回6月12日(土)「瓦葺きの美学」
 徳舛秀治<薨技塾 徳舛瓦店(有)代表取締役>
- 第54回7月10日(土)「浮世絵木版画の技術」佐藤景三<浮世絵版画摺師>
- 第55回9月11日(土)「京飴 よもやま話」
 今西政博<今西製菓(株) 専務取締役>
- 第56回10月16日(土)「京都風呂敷七変化」掛札英敬<(有)京都掛札>
- 第57回11月6日(土)「京の出版事情 観光ガイド今昔」
 堤勇二<京都学園大学非常勤講師>
- 第58回12月11日(土)「鶴飼一鳥、人、川のつながりから」
 江崎洋子<鶴匠・本学卒業生>
- 第59回2011年2月19日(土)「螺鈿の魅力について」
 野村守<嵯峨螺鈿 野村>
 ※いずれの回も14:20～有響館G401教室にて。
 お申込み・お問合せは文化事業部まで。TEL.075-864-7898

あらし山びこスケジュール

本学附属図書館の児童書コーナー「あらし山びこ」設置を機会とし、近隣の小学生や児童を対象に開催するイベント「あらし山びこ」。毎回テーマを決めて、そのテーマにまつわる絵本の読み語りや、お話などを地域の方と交流しながら展開します。

5月15日(土) テーマ「さかのおまつり」
 11月3日(水・祝) テーマ「秋のあらしやま」
 時間:13時30分～ 場所:京都嵯峨芸術大学 附属図書館 児童書コーナー

「編集後記」

2010年度がスタートしました。学園創立40周年を来年にひかえ、今年は大学校舎の耐震補強工事や環境整備計画の実施、さらに40周年を記念したイベント事業の開催や学部・学科再編計画の実行に向けて邁進する年になりそうです。それゆえ大学の情報をつぶさに社会へ伝える学外広報はもとより、学生や教職員など、大学内部に対する学内広報もまた重要な要素と考えています。今後広報誌をはじめとした印刷媒体や本学webなどを中心に、正確かつ伝わりやすい広報を心掛けてまいります。(広報室)

学校法人 大覚寺学園
京都嵯峨芸術大学
 大学院・芸術学部・短期大学部



京都嵯峨芸術大学広報 第32号 2010年4月1日発行 編集:京都嵯峨芸術大学 総務部 広報室
 発行:学校法人 大覚寺学園 京都嵯峨芸術大学 〒616-8362 京都市右京区嵯峨五島町1番地
 TEL.075-864-7859 FAX.075-881-7133 info@kyoto-saga.ac.jp www.kyoto-saga.ac.jp



物の興廃は必ず人に由る 人の昇沈は定んで道にあり

— 綜芸種智院式并序 —

特別寄稿 大覚寺学園 理事長 | 黒髪寛延

新入学あるいはそれぞれの進級を果たしたみなさんおめでとうございます。

桜花爛漫の昭和46年4月5日、大覚寺学園「嵯峨美術短期大学」の開学記念式典が挙行され、4月13日に初めての入学式がおこなわれました。当初は大覚寺の施設の一部を教室に、境内の広場を運動場という状態でのスタートでありましたが、大勢の志願者の中から厳しい選抜試験を経て入学した学生諸君の、夢と情熱に燃えていた姿が印象的でした。その後プレハブの仮学舎を経て、昭和48年に現在の実習棟と学生棟が完成し今日まで徐々に整備されてきました。平成13年には創立30年を期して4年制大学の認可を受け、短期大学を併設した「京都嵯峨芸術大学」として生まれ変わり、平成17年には「大学院」を開設して現在に至っています。そして来年の創立40周年を迎えるにあたり、耐震工事や施設整備を実施し、より充実したみなさまの学生生活を応援いたします。

本学園の設立母体である大覚寺は真言宗の本山ですが、いけ花嵯峨御流の総司所でもあります。大覚寺では嵯峨御流の特徴である宗教性が加味された華道を通して、より円満なる人格の人間教育を目指し、昭和24年に「華道芸術学院」を創設しました。さらには時代のニーズもあって前述の如く昭和46年に大学に昇格させ、華道の芸術性と理論を深めようと、総合芸術の学府として「嵯峨美術短期大学」を設立したのです。

開学記念式典で乃村龍澄初代学長は「本学の意図するところは、最近の教育の進歩と向学心向上の流れを受け、より良き環境と伝統の中で、宗教的には真を、人間的には善を、芸術的には美を、この『真・善・美』を具現することが本学園の精神である」と挨拶されました。後年制定された学園の教育憲章には「大覚寺が始祖と仰ぐ嵯峨天皇ならびに宗祖弘法大師の思想と実践に学ぶ」とあります。

弘法大師・空海は唐から帰国の後、嵯峨天皇の厚い信頼を得て真言宗を開きめざましい活躍をします。その一つとして「綜芸種智院」という日本最初の庶民学校を創設しました。創設の趣意書ともいえる『綜芸種智院式并序』の中で「物の興廃は必ず人に由る。人の昇沈は定んで道にあり」と、人間教育の重要性を述べています。弘法大師がいうこの「道を究めた人」とは、まさに「真善美」を完全に備えた人でありましょう。本学園の教育憲章の精神もそこに帰着します。

喜び、悲しみ、感動、怒り、安らぎなどという感情は、人間にとってとても大切なものですが、その感情を自分自身の中で十分にコントロールし、さらには他人と共有して社会に潤いを持たせ得るのが「情操」であります。その情操を養うのに最たるものが「芸術」でありましょう。すばらしい環境と伝統の中、感性豊かな情操を磨き育てて下さい。



黒髪寛延 くらかみ かんえん

新入生諸君へ

— 開学40年を迎える学園にようこそ —

特別寄稿 京都嵯峨芸術大学 副理事長・学長 | 三好郁朗

新入生のみなさん、入学おめでとう。早くから本学を目指して準備してきたみなさんも、いろいろな経緯で本学に落ち着いたみなさんも、それぞれに、しっかりと目標をもって学んでいてくれること、それが私の心からの願いです。

わたしたちの学園は真言宗大本山大覚寺の創設になります。大覚寺の生みの親というべき嵯峨天皇と宗祖弘法大師の思想と実践に学び、その精神を現代の高等教育に活かすことを、建学の精神としてきました。弘法大師は当時世界の最先端の文化国家であった唐で学び、わが国に真言密教の正統を伝えるとともに、書や詩文などの芸術活動から寺院建築、学校教育、社会事業に至るまで、実に広範な分野でその後の日本思想、日本文化の礎を築くことになりました。それはまさに文化デザイナーとでも呼ぶべき活動であり、わたしたちが、崇敬の念とともに、本学の教育・文化活動の指針とするところのものです。

社会では、次代を担う若年層の人口減少が深刻な問題になっています。そういう意味でも新入生のみなさんは、本学にとってまさに金の卵です。大切に、大切に育てていきたいと願っています。ただ、むやみに甘やかすだけでは、なんのために大学で学んでもらうのかわからない。私は学生時代からスポーツにかかわりがあり、指導者としての経験も長いのですが、近年、個性を生かすと称して、自由に楽しく競技させるタイプの指導がはまっているようです。楽しみとしてのスポーツならともかく、本格的な選手を育てようとする、それではすまない。基礎体力、基礎技術の訓練がすべての前提で、そのためにはときに厳しく規律を仕込むことも必要になります。

本学の最大の特徴は、派手さこそないがしっかりと地に足をつけた、ほんとうの意味でオーソドックスな芸術教育を目指してきたことだと、私は信じています。指導にあたる先生方もその辺りを十分に心得て、みなさんの個性を大切にしながらも、どこへ出しても恥ずかしくない基礎的知識と技術を身につけるよう指導してくださるはず。その上にたつて自ら学んでいくという姿勢、それをぜひとも本学で身につけていただきたい。

本学は、来年、開学40周年を迎えます。世に数ある大学のなかではまだまだ若い大学ですが、これまでに本学で学び社会で活躍されている数多くの卒業生、本学の教育を支えてくださった多くの関係者のみなさんのためにも、いま一層の飛躍を期しているところです。その一つとして、いささか古くなった校舎の改修・耐震化と周辺環境の整備をめざし、今年度の夏休みに大規模な工事を敢行します。学期スケジュール等に多少の影響がでるかと思いますが、美しく使いやすく安全なキャンパスに生まれ変わるのを、ぜひ楽しみにしてください。また、芸術学部では、現在2つあるデザイン系学科を、来年度から1つのデザイン学科に統合拡充することとしています。もちろん在学生諸君のカリキュラムは卒業までしっかり保証されますので、ご心配なく。

学園をあげて40周年を祝える日を、いまから楽しみにしています。



三好郁朗 みよし いくお



NEWS

KYOTO SAGA UNIVERSITY OF ARTS PUBLIC RELATIONS

理事会報告

2010年度運営体制

2010年度の各種運営、教学、附属施設、研究機関の体制が、下記の通り編成されました。(2010年4月1日付)(総務課)

執行部体制(教授会運営協議会)			
学長	三好 郁朗	教授(文化事業部長兼務)	
芸術学部長	箱崎 睦昌	教授(副学長兼務)	
短期学部長	北村 正己	教授	
教務部長	宇野 和幸	教授	
学生部長	坂田 岳彦	准教授	
入試部長	増田 洋	教授	
総務部長	午居 隆平	事務局長(兼務)	
学身体制			
造形学科長	宇野 和幸	教授(兼務)	
メディアデザイン学科長	三宅 章介	教授	
観光デザイン学科長	真板 昭夫	教授	
大学院研究科長	箱崎 睦昌	教授(兼務)	
美術学科長	藤本 秀樹	教授	
専攻科長	北村 正己	教授(兼務)	
講義部門長	森本 武	教授	
美術部門長	北村 正己	教授(兼務)	
デザイン部門長	佐藤 秀樹	教授(兼務)	
企画室長	藤本 仁志	教授	
広報室長	芳本 泰章	教授	
文化事業室長	松野 明	准教授	
学生相談室長	清瀧 裕子	准教授	
附属機関、研究機関体制			
博物館長(ギャラリー兼務)	金氏 脩介	教授	
芸術文化研究所長	佐々木 正子	教授(図書館長兼務)	
観光デザイン研究センター所長	真板 昭夫	教授(兼務)	
40周年記念事業室長	増田 洋	教授(キャンパス整備委員長兼務)	

名誉教授の称号授与

2010年4月1日付で、次の先生方に名誉教授の称号が授与されました。(総務課)

林 潤一 先生 ※2009年3月31日ご退職
 (元 芸術学部 造形学科 日本画分野 教授)

主手 朋英 先生 ※2009年3月31日ご退職
 (元 短期大学部 美術学科 美術分野 教授)

平松 國和 先生 ※2010年3月31日ご退職
 (元 芸術学部 造形学科 彫刻分野 教授)

加藤 明子 先生 ※2010年3月31日ご退職
 (元 芸術学部 造形学科 造形基礎 教授)

米澤 穂積 先生 ※2010年1月8日ご逝去
 (元 短期大学部 講義部門 教授)

教員人事

【退職】(2010年3月31日付)下記の方が退職されました。

平松 國和(芸術学部造形学科教授)

加藤 明子(芸術学部造形学科教授)

【新任】(2010年4月1日付)下記の方が採用されました。

大沼 恵昭(芸術学部造形学科准教授)

竹内 オサム(芸術学部メディアデザイン学科准教授)

大島 成己(芸術学部造形学科准教授)

竹内 三雄(芸術学部造形学科教授・特別任用教員)

【昇任】(2010年4月1日付)下記の新先生方が准教授に昇任されました。(総務課)

西山 健史(短期大学部美術学科)

職員人事

【採用】(2010年4月1日付)下記の方が採用されました。(総務課)

古川 誠(総務部広報室)

40周年記念事業 学科再編について

芸術学部の新デザイン学科は、何よりもデザインの根幹をなす基礎的創造力の育成に重点をおき、各専門領域の充実、強化をはかられた統合的デザイン学科となります。

メディアデザイン系(グラフィックデザイン領域、映像・アニメーション領域、ウェブデザイン領域)、イラストレーション系(イラストレーション領域)、生活デザイン系(プロダクトデザイン領域、スペースデザイン領域)、観光デザイン系(観光デザイン領域)の4系7領域の編成です。(大学再編委員会)

40周年記念事業 耐震補強・環境整備工事について

耐震補強工事の対象はA・B・C棟で構造耐力を現行基準と同程度とし、安全性の向上をはかります。また、外観への配慮から南面(正門側)のRCフレーム補強は、水平・垂直材のみとし、ブレース(斜材)は設けないデザインとなっております。A棟ではB棟で用いられている化粧リブを設け、デザインの統一感のあるファサードを重視しました。

環境整備工事はキャンパスイメージの向上、快適さ・使い勝手の向上、出会い・交流スペースの創出、自然との共生を目指した環境づくりを目指します。具体的には、キャンパスの玄関としての吹き抜けのあるエントランスの整備、正門の移動、共用廊下、階段、トイレの改修、多目的スペースの整備や緑化計画等です。耐震補強・環境整備工事は9月末に、環境整備工事の一部は翌年3月末に完成予定です。(40周年記念事業室)

追悼 教育後援会創設者 橋本奈良二先生

教育後援会 副会長 森内優



平成22年1月3日、京都嵯峨芸術大学教育後援会の創設者で当教育後援会の顧問でもある橋本奈良二先生が亡くなられ、2月2日午後1時、ホテルグランヴィア京都でお別れの会が催されました。

私は、お別れの会の事を新聞記事で知り、2月2日午後0時前に会場に着きました。午後1時開式ということでしたから1時間以上前に会場に入ったこととなります。会場で案内をして頂いた方は何だかと思われたかも知れません。実は、私は亡くなられた方のお別れの会に参列させて頂くのは初めての経験でした。新聞の広告には、『平服で』となっていましたのでスーツにすべきか、黒の礼服にすべきか迷いました。最悪の場合には自宅に着替えて帰る事を前提に早い日に会場に入りました。会場に到着し、必ずしも黒の礼服でなくても良さそうだったので着席しました。一般の参列者は未だ少なく来賓席の直ぐ後ろに案内されました。来賓席には、山田啓二京都府知事などもスーツで着席され一安心しました。

着席し祭壇の先生の遺影を見上げました。その瞬間、開く筈の無い先生の口から『よう来てくれたな』という声が聴こえたような気がして思わず涙ぐみました。

遺影の前には愛用の(ホイッスル)も飾られていました。先生は国立東京水産大学のご出身でご自身は《船乗り》と自認して居られたようで何時も首にホイッスルを掛けて居られたと聞きました。私はネクタイを着けた先生のイメージが着けられたいと思っております。因みに先生のニックネームが《船長》だった時にはむむむかな、と懐いた記憶があります。

私が先生に初めてお会いしたのは、日時ははっきり記憶していませんが、教育後援会のOB会の席上で、会場はフランス料理の(萬養軒)だったと思います。この時は、同じく当教育後援会の創設者で

ある株式会社思文閣社主、田中周二先生にも紹介して頂きました。以後、年2回のOB会・年1回の新旧役員歓迎会などで同席させて頂きました。

先生と親しく会話をさせて頂くようになったきっかけは、日時は記憶がありませんが新旧役員歓迎会席上のスピーチで『教育後援会を創設された橋本奈良二・田中周二両先生には先見の明があった』とお話したことでした。その後先生はお会いする度に、その事を憶えていて傍に招き同席している皆さんにその事を紹介して頂きました。

先生を一口で紹介するとしたら《豪放磊落》ということになると思います。この言葉以外に先生を紹介する言葉は見当たりません。

先生のお仕事は、神仏具の蠟型鋳造業の株式会社傳来工房の取締役会長でした。先生のご自慢は、1200年前の平安時代に、弘法大師空海が唐からもたらした神仏具の蠟型鋳造業(傳来)を今に傳え、その技術を建築デザインや美術工芸の域にまで拡大し『傳来工房』として会社組織を立ち上げられたことでした。先生は、皇居正門二重橋前ブロンズ高欄、赤坂離宮迎賓館の大聖庭園灯を始め、数多くの業績を上げられ、実績は遠く海外にまで及びドイツミュンヘンのBMW本社ビルのアルミダイキャスト外装なども手掛けられました。

先生は本業以外に多くの公職をお持ちでした。(社)京都経済同友会、(社)京都工業会を通じて地域経済の発展に力を注がれました。又独特の《ものづくり精神》を引っ提げ(社)京都国際工芸センター、(協)京都クラフトセンターなどの活動を通じて工芸振興発展のために数多くの足跡を残されました。

個人的には、京都府立二中のご出身であったことから現鳥羽高校で講演などを通じて在校生に語りかけ、ご自身の夢を後進に託すことも余念がありませんでした。

お別れ会が終わり、遺影の前に立ち献花をし、『先生、ご苦労様でした。安らかにやすみ下さい』と最期のご挨拶を申し上げ会場を後にしました。合掌。(教育後援会 副会長 森内優)

大学報告

2010年度入試結果報告

昨年8月のAO入試体験授業から始まった2010年度入試も、3月をもって全日程を終了しました。2010年度入試では、短期大学部美術学科においてデザイン分野マンガ領域が独立して入試を実施し、さらに実技試験の選択科目に「マンガ表現」を追加しました。

志願者総数は芸術学部414名、短期大学部美術学科218名という結果となりました。短期大学部美術学科で、昨年より志願者が増加しました。AO入試試験での志願者増と、ここ数年減少傾向にあった一般入試試験での健闘が志願者数を押し上げた要因となりました。

2011年度は芸術学部、短期大学部とも学科が改編されます。それに伴い入試内容等の大幅な見直しを予定しています。また、本学創立40周年記念事業等の行事も控えており、例年以上に受験生や高校、美術研究所の先生方等に対する告知を充実していきたいと考えています。(入試課)

2009年(平成21年)度卒業式

2009年度京都嵯峨芸術大学および京都嵯峨芸術大学短期大学部卒業証書・学位授与式、ならびに修了証授与式を2010年3月20日(土)に執り行いました。卒業・修了者数は以下の通りです。(教務課)

○京都嵯峨芸術大学		
大学院 芸術研究科	7名	
芸術学部	90名	
観光デザイン学科	48名	
○京都嵯峨芸術大学 短期大学部		
専攻科	30名	
美術学科 美術分野	31名	
デザイン分野	109名	
計	315名	



第38回 京都嵯峨芸術大学 制作展開催報告

卒業・修了制作展

2月3日(水)～2月7日(日)の5日間、京都市美術館において、京都嵯峨芸術大学ならびに同短期大学部、同大学院の卒業・修了制作展を開催しました。学生生活の集大成ともいえる充実した作品がならび、4,000名近くの方々にご来場いただき、盛況のうちに終えることができました。

なお、開催期間中に、優秀作品として賞状を選定しました(下記の一覧参照)。受賞者は、3月20日(土)の卒業・修了証授与式に立って行われる授賞式で表彰されました。



京都市美術館での卒業・修了制作展風景

第38回 京都嵯峨芸術大学 制作展 受賞者一覧

[大学院・芸術学部]						
賞	学科	分野	学籍番号	氏名	作品名	
学長賞	造形学科	油画分野	A20616	寺田 直夫	heartless	
芸術研究科賞	芸術研究科	造形総合分野	G20802	加納 俊輔	rotary engine	
芸術学部賞	造形学科	日本画分野	A106006	江上 華子	朝顔山園 幽静庭園 花開園 大正府邸園 大正邸園 山荘春行園	
芸術学部賞	観光デザイン学科	B106012	菊地 瑞穂			
大賞受賞	芸術研究科	造形総合分野	G20801	奥 忍		芸術教科に於ける 文学的表現 —統合的アプローチ に焦点をあてて—
教育後援会奨励賞	造形学科	日本画分野	A106003	上田 希希哉	朝顔	
教育後援会奨励賞	造形学科	日本画分野	A106018	平山 友夏	芭蕉園	
教育後援会奨励賞	造形学科	油画分野	A206025	山口 知香	cover_09	
教育後援会奨励賞	造形学科	版画分野	A306014	日比 暢子	broccoli edamame	
教育後援会奨励賞	造形学科	彫刻分野	A506005	白上 大翔	編織	
教育後援会奨励賞	観光デザイン学科	B106015	栗山 正樹	Ashi		
教育後援会奨励賞	観光デザイン学科	G108002	鈴木 直展	乙女原点帰帰		
同窓会賞	芸術研究科	造形総合分野	B108001	清水 綾子	国立原氏物語絵巻	
同窓会賞	造形学科	油画分野	A208001	寺島 涼子	風船空 糸巻子尺	
同窓会賞	造形学科	版画分野	A306004	岡本 紗織	TEMPULSE PT314	

[短期大学部]

賞	学科	専攻/分野	領域	学籍番号	氏名	作品名
学長賞	美術学科	美術分野	洋画	C108023	田辺 美帆	mountain
美術学科賞	美術学科	美術分野	日本画	C108031	前島 恵里乃	野の草
美術学科賞	美術学科	デザイン分野	グラフィック	C208112	柳野 実希	下町生活の風景— 「モノ」のデザイン
専攻科賞	専攻科	デザイン専攻		D208003	柳野 実希	配管システム— 「モノ」のデザイン
大賞受賞	美術学科	デザイン分野	グラフィック	C208022	平島 葉子	大きな絵が「モノ」
大賞受賞	専攻科	美術専攻	日本画	D108001	安藤 聖花	黒花
大賞受賞	専攻科	デザイン専攻	日本画	D208016	山崎 優	ABENTURE
教育後援会奨励賞	美術学科	美術分野	洋画	C108004	河野 聖生	内面
教育後援会奨励賞	美術学科	デザイン分野	グラフィック	C208034	柳川 早貴	わたしの京野菜
教育後援会奨励賞	美術学科	デザイン分野	グラフィック	C208049	木村 彩香	Ten Gosh Bears
教育後援会奨励賞	美術学科	デザイン分野	グラフィック	C208090	西谷 有樹子	Blimey(ブライミー)
教育後援会奨励賞	美術学科	デザイン分野	グラフィック	C208118	本野 優	A no z
教育後援会奨励賞	美術学科	デザイン分野	マンガ	C208048	木下 市原	アズス
教育後援会奨励賞	美術学科	デザイン分野	グラフィック	C208130	川口 英治子	静かなる
教育後援会奨励賞	美術学科	デザイン分野	グラフィック	C208108	藤井 聖雄	non-ShinShinable
教育後援会奨励賞	専攻科	美術専攻	日本画	C208012	杉田 愛生	いちご2000♡
教育後援会奨励賞	専攻科	美術専攻	洋画	D108018	村田 晃雄	遊歩
同窓会賞	美術学科	美術分野	洋画	C108005	藤野 由佳	空想を抱き込む
同窓会賞	美術学科	デザイン分野	マンガ	C208123	村上 律生	KOTORI house
同窓会賞	美術学科	デザイン分野	マンガ	C208018	今西 可喜	COM 夢野 愛の夢
同窓会賞	美術学科	デザイン分野	マンガ	C208028	大瀧 早奈	Bamboo chair
同窓会賞	専攻科	美術専攻	日本画	D108010	佐川 真紀	川の中の子

進級制作展

卒業・修了制作展と同期間中、本学内では、芸術学部1・2・3回生と短期大学部1回生の進級制作展を開催し、800名近くの方々にご来場いただきました。授業における課題作品や、自由制作作品がキャンパス各所で展示され、普段とは違った雰囲気大学を包みました。(教務課)



本学での進級制作展風景

卒業生の活躍

伴 直美(旧姓:大倉) ばん なおみ

京都府木津川市出身
 1998年 嵯峨美術短期大学 美術学科 デザイン専攻 生活デザインコース 卒業

京都・一澤信三郎帆布で日々カバン製造に打ち込む伴さん
 学生生活にも共通する、職人を続けるために大切なことは?

—現在のお仕事を教えてください。

京都市東山区にある一澤信三郎帆布で、カバンの製造をしています。今年で11年目です。ミン生をふみ、帆布カバンを製作する毎日です。

—カバン職人のお仕事の苦労話や喜びなどを教えてください。

私の作っているものは「作品」ではなく「製品」であり、「そこそこのもの」を「ある程度の時間」で作るのです。「工芸品」ではなく「モノを運ぶ道具」を作っています。定番のデザインでカバンを作っているのですが、どこまで100%の仕事なのかは決められているわけではありません。自分の納得のいくクオリティーのものを仕上げると、いかに手際良くキレイな製品ができるかは、自分で模索し、工夫しながら作っていきます。何年やっても、仕事をするうえで度々となぐに当たりますが、考えながら乗り越えることは自分の得意とするところであり、そここそ、私は一番作る楽しさを感じています。カバンはお客様に使っていただくものですから、自分位なモノ作りではなく、そのモノ作りといえども、ミン生や生地に向かい合っているばかりではなく、仕事をしてくうえで、次の作業をする人の事を考えて自分の仕事をすると、先輩方からアドバイスをもらう、職人同士で相談し合いながら考えていくなど、常に「人とのかわわり」があります。そして「人とのかわわり」から「人とのつながり」が生まれ世界が広がっていく、仕事を続けていると、ふとそんな瞬間に巡り会える事があります。もちろん、仕事は一人では出来ないのだから「人」の存在は常に感じながら仕事をしています。自分の仕事と周りの「人」の仕事がセツクとハマる瞬間に職人としての大きな喜びを感じます。仕事のことがばかり考えていてもなかなかその瞬間に巡り会うことは出来ません。とにかくいろんな経験をする。いろんな事をやる。いろんな所に行ってみる。いろんな人に会う、そんな日々の生活、経験があるから仕事も工夫しながら、そして、楽しみながら仕事ができると私は思っています。

—学生時代のお話や後輩へのメッセージなどを教えてください。

高校3年生の夏、オープンキャンパスの際の席になった女の子と知り合い、その後入試で再会、そして再び入学式で再会……。そのつながりで仲良くなったグループは、学生時代にたくさん刺激をもたらした大切な友達です。今でも時々連絡を取り合ったりしています。入試、就職、セミナーや資格のための勉強も大切なことだとは思いますが、いろんな可能性が広がる学生生活の間こそ、日々の生活や、人とのかわわりの中に沢山のヒントを見つけてもらえたら、と思います。



帆布カバンを製作する伴さん

TOPICS

KYOTO SAGA UNIVERSITY OF ARTS PUBLIC RELATIONS

教員・在学生の活躍

2010年池田銀行カレンダーデザインコンペ

一足早く大樹の『さくら』咲く
 本学生が「最優秀作」「佳作」を受賞!

池田銀行(本店:大阪府池田市)が行った『2010年池田銀行カレンダー原画公募』にて、応募数約900点のなかから本学芸術学部の造形学科日本画分野の仲井貴子さんが「最優秀作」を、同じく造形学科日本画分野の又地真琴さんが「佳作」を受賞しました。本公募は、地元関西の文化の発展を願い、特に芸術を志す大学生の活動を応援するために行われたもので、3回目を迎えた今回は2009年6月1日(月)から8月31日(月)の期間中に公募が行われ、11月26日(木)に池田銀行のホームページ上で受賞作品が発表されました。最優秀作に選ばれた仲井さんの作品『さくら』は、2010年の池田銀行カレンダーのメインビジュアルとして採用され、京阪神地域で配られました。(広報室)

第28回(平成21年度)京都府文化賞

陶芸による造形表現の探求

日野田崇先生が京都府文化賞を受賞!

本学芸術学部造形学科工芸分野(陶芸)の日野田崇先生が、第28回(平成21年度)京都府文化賞の奨励賞を受賞されました。京都府文化賞とは、昭和57年度に創設されて以来、京都府における文化の振興と発展を図るため、京都文化の向上に寄与した人物を対象に京都府が顕彰を行っているもので、2010年1月5日(火)に、京都府より正式に受賞者の方々が発表されました。今回、日野田先生が受賞された「奨励賞」は、新進の芸術家など文化芸術活動における業績が特に顕著である人物に授与されるものです。(広報室)

学園創立40周年記念事業 特別公開講座開催

文化遺産をめぐる知恵の旅…

本学主催の知的ツアーを実施

2010年1月16日(土)、本学において、学園創立40周年記念事業 特別公開講座「古代と現代を結ぶ文化遺産の風景」を開催しました。本講座は、本学が2011年に学園創立40周年を迎えることを記念したもので、第一部では東北大学大学院教授の長岡龍作氏による特別講演を行い、第二部では本学教員が共同編集した本が出版されたことを記念して、『風景と伝統』—「古代と現代を結ぶ文化遺産 大覚寺大池田池遺跡修復プロジェクト」—

と題したシンポジウムを開催しました。当日は、文化遺産、ひいては地域の「伝統文化」を維持し未来に引き継いでいく知恵について、様々な角度から議論が交わされ、学内外よりお集まりいただいた200名を超える聴講者の皆さんにとって、文化遺産について想いを巡らせていただく貴重な機会となりました。(広報室)



学生自主企画展覧会「one room5」「永戸鉄也講演会」開催

学生だって負けてません

学生による自主企画・主催イベントが盛況

近年恒例となった学生の自主企画・運営による展覧会「one room5」が、2010年2月3日(水)から11日(木)にかけて、本学内で開催されました。本展覧会は学内のアパートメント形式のクラブボックス(部室)をそれぞれの個展会場に見立て、1室につき1組の作家が作品を展示するという個展形式の展覧会で、2月8日(月)には、ゲスト作家として国内はもとより国際的に活躍する現代美術家の名和晃平氏を招き、「one room5」出展者の作品講演会・講演会を開催。また2月5日(金)には、今回初めての試みとしてアーティストの永戸鉄也氏の講演会が学友会の企画・主催により、本学内で開かれました。これは、同時期に学内で開催されていた進級制作展に、少しでも多くの方々足を運んでもらおうと学友会が独自に企画・実施したもので、当日は、展覧会・講演会共々盛況のうちに幕を閉じました。(広報室)

